

幸せの光の中に私たちはいます。

仏説無量寿経に阿弥陀仏が四十八の願いを立てて成就したとあります。

第七、第八の願いを読みますと、「私(法蔵菩薩)が阿弥陀仏になれば、私の国の人はずべての音を理解できる存在となる」「阿弥陀仏の国のすべての人は、相手の考えていることを知る能力を得る」と説かれています。

音とは光が変換したものです。電話も無線も音楽も音は光(電気)になって届きます。つまりすべての音とは無限の光を知ることになります。そして相手の思っていることがわかるということは平たく言えば救済方法を提案できるということで、人々に真実の生き方である菩薩のはたらきをさせようと阿弥陀仏が活動しているのです。

相手の思っていることがわかれば、その先の行動が容易にできます。容易ということは心に余裕が生まれます。余裕があれば安心が生まれます。人々に安心を与えることが人間らしい生き方なのですが、人間には限界があり真実の安心を届けることは不可能です。

人間に阿弥陀仏が真実の安心を与えて、無限の安心をすべての人たちに届けさせる役目をさせようとはたらいっています。

不可能を可能にさせるはたらきが、なもあみだぶつの救済です。

4月8日はお釈迦さまの誕生日、花まつりです。お釈迦様の悟りとは、人間らしく真実の安心を与えるはたらきだったのです。合掌

